

教育実習との役割を明確にした「学校インターンシップ」の在り方 －教育委員会・学校・大学との連携を通して－

調査の概要

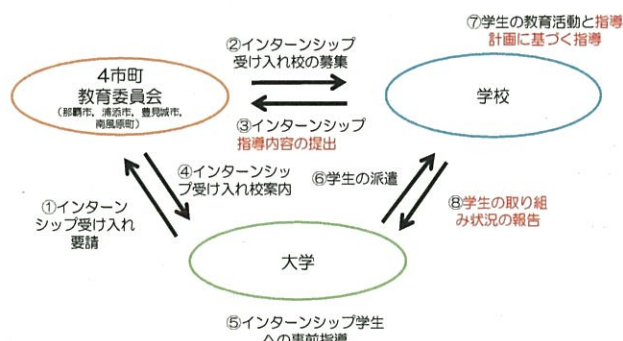


図1 「学校インターンシップ」の実施についての連携の概略図

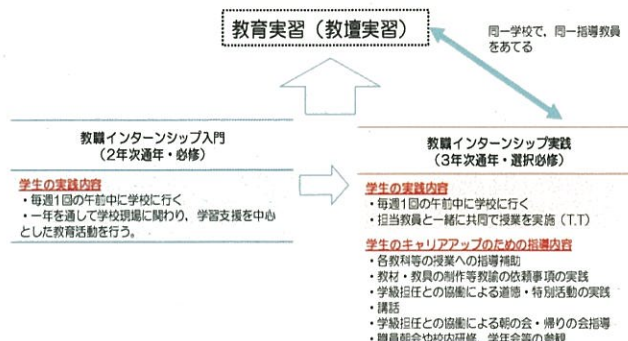


図2 「学校インターンシップ」から既存の「教育実習」までの流れ

◆研究目的

本調査では、継続的な学校現場での実習経験、つまり「学校インターンシップ」と既存の教育実習などの実施に伴い、本学がこれまで行ってきた教育委員会や学校、大学の連携体制の構築による環境整備についての成果と課題を明らかにする。また、継続的な実習経験による教師志望学生の学習成果についても事例的に明らかにすることで、「学校インターンシップ」と既存の教育実習との役割の違いやカリキュラムのあり方について整理する。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①「ボランティア」から「インターンシップ」

「ボランティアを行う」ことが科目の内容であったのが、2015年度から「各教科の授業への指導補助や教材づくり、環境整備、学校行事サポート、支援を要する生徒への学習支援等」（教職インターンシップ入門）、「教科の授業への指導補助や学級担任との協働による道徳等の授業実践、学校行事等への参加等」（教職インターンシップ実践）とその内容の充実を図った。

⇒「ボランティア協定」から将来の教師を協働して育てるための「インターンシップ協定」へ

②教職インターンシップ推進委員会の開催

教育委員会、学校と大学の教職課程の理念の共有、3者の連携について協議

◆成果

- ・観察実習からインターンシップ入門、実践そして教育実習へとつなぐ、本学の実習系科目の系統性とそのねらい等について、学校現場の理解・協力が得られるようになってきた。
- ・各教科の授業支援を行うことで、学生は教師の指導技術を学ぶことにつながり、担当教師や生徒とのレポートの形成ができるようになった。
- ・3者の協働による評価指標の開発

今後の課題

- ・教職への適性や進路変更に伴い科目の履修を断念する学生及び当該学校への対応の在り方
- ・年間を通して週1回午前中の活動から、終日の活動への検討
- ・学校と大学が連携した学生の評価の在り方⇒相互に協働して学生を育てるための手立て